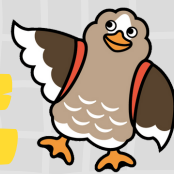


学力向上

1・2・3運動



令和7年10月15日～12月23日実施

「学力向上1・2・3運動」が、今年も始まります。大崎市では児童生徒一人ひとりのよりよい学びにつなげる取組を、**学校・家庭・教育委員会が連携**して進めていきます。

学校と家庭で共に



学校で
1

1人ひとりに目を向ける

個別最適な学び

個に応じた指導や支援に、**AIドリル**等を活用しよう。

学校で
2

2人以上の学び合いの場をつくる

協働的な学び

対話や**ロイロノート**等を活用して学び合いを行い、考えを広げ深めよう。

家庭で
3

30分プラスの家庭学習を行う

「あと3問」への挑戦

家庭学習の時間を**あと30分**増やし、各種テスト等で**あと3問正答**を目指そう。

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を受け、学校では以下の取組にも力を入れていきます。



学校で

授業改善1



学ぶ楽しさや達成感を実感できる授業づくり

－「主体的・対話的で深い学び」の土台づくりと実現に向けて－

- ▶ **課題の解決に向けて自分から取り組んだ児童生徒ほど、各教科の正答率が高い**傾向があります。
- ▶ 主体的に学ぶ姿勢を育てるため、**課題に見通し**をもたせ、**対話や振り返り**を通して学びを深めます。
- ▶ **AIドリル**や**ロイロノート**なども活用し、「楽しい」「できた」を実感できる授業づくりを行います。
- ▶ 児童生徒の**協働**による授業や**対話**を重視した授業づくりを行います。

授業改善2



ねらいと評価を明確にした単元構想

－カリキュラム・マネジメントの工夫を通して－

- ▶ **単元全体**を見通し、**ねらいと評価を明確**にした授業づくりを行います。
- ▶ 「学力向上年間計画」を基に、**PDCAサイクル**の循環促進を行います。

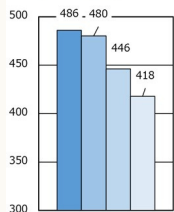


令和7年度全国学力・学習状況調査の結果から、家庭学習における以下の傾向が明らかになりました。

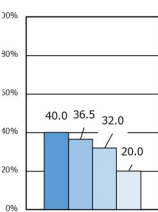
生活習慣と正答率

- ▶ 規則正しい生活習慣が定着している児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向があります。

「就寝時刻が決まっている」
×中学校理科スコア



「起床時刻が決まっている」
×中学校数学正答率



平日の学習時間

- ▶ 1時間以上家庭学習する割合は、全国より下回りました。

1時間以上家庭で学習している割合
【小学6年】**49.7%** (全国54.0%)
【中学3年】**51.5%** (全国61.1%)

家庭での学習時間が30分以下の割合

【小学6年】**19.4%**
【中学3年】**23.1%**

※うち家庭で学習を全くしない割合

【小学6年】**4.8%**
【中学3年】**8.9%**

主体的な学習時間の調整

- ▶ 自分で学び方を考え、工夫することができると回答した児童生徒ほど各教科の正答率が高い傾向があります。

自分で学び方を考え、工夫することができる割合：

【小学6年】**75.0%** (全国81.7%)
【中学3年】**75.9%** (全国77.5%)



以上の結果を受け、家庭で大切にしてほしい3つの取組をまとめました。



家庭で

STEP 1



家庭学習の習慣化 —生活リズムの「3点固定」—

① 起床時刻 ② 家庭学習の開始時刻 ③ 就寝時刻

の3つの時刻を毎日固定することが重要です。十分な睡眠時間を確保して体調を整え、毎日決まった時刻に勉強することで学習習慣を身に付けることができます。また、自分で決めた時刻を守ることで、目標達成に必要な自己コントロール力も育むことにつながります。

STEP 2



家庭学習の時間の確保 —学習の「量」の向上—

平日・休日ともに、家庭学習であらかじめ決めた時間帯に一定の学習時間を継続して確保することが大切です。毎日学習時間を確保することで、学習内容の定着にもつながります。

STEP 3



家庭学習の内容の工夫 —学習の「質」の向上—

- ① 家庭学習を始める前に目標設定をしたり、学習後に振り返りを行うと効果的です。
- ② 新聞や「よむYOMUワークシート」等を活用して、読解力向上を図りましょう。
- ③ 学習内容に応じて、ワークやAエドリルを使い分けましょう。AIドリルは、間違いの傾向を分析して問題やヒントが自動で出題されるため、個に応じた学習ができます。



子どものやる気を引き出す「家庭のひと工夫」

① 励ましや声掛けをする！

「よくがんばったね」など、できたことを認める姿勢が大切です。

② 学習に集中できる環境をつくる！

静かで集中できる場所を用意し、テレビやスマートフォンなど気が散るものは遠ざけましょう。

③ 学習内容を話題にする！

家庭で学習内容について話題にすることで、子どもの学びへの関心が高まります。



さらに詳しい調査結果は
下記の二次元コードから
ご覧ください

